

学習者の「活動」の使い方について

加藤恵梨（大手前大学）

erikato@otemae.ac.jp

【要約】

本研究は、日本語学習者の「活動」という語の使い方に注目し、『日本語学習者作文コーパス』および『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用い、日本語学習者が「活動」をどのように用いているのかを調査し、使い方が不自然である場合、どのように訂正したら良いのかについて提案した。「活動」が人の行動について使われる場合には、何らかの目的や使命があり、それに応じて行動をするという意味を表す。よって、そのような意味を表さない場合には、「活動」を①「こと」、②「行為」、③「運動／遊び」、④「イベント／行事」と表現したほうが良いということを提案した。また、「活動」の類義語である「アクティビティー」についても、使い方が不自然である場合の修正案を示した。

1. はじめに

次の(1)は「日本での経験」というタイトルで書かれた、中級レベルの日本語学習者の作文の一部である¹。

- (1) (前略) 9月上旬に3週間に東京からロンドンに帰える前に、イギリス人と日本人の友達に合った。浅草とも吉祥寺などで、さまざまな活動を楽しんだ。特に、ハーモニカ横丁に行った時、にぎやかできわめて楽しい立ち飲み屋で飲んで、焼き鳥を食べた。蒸し暑い天気にもかかわらず、日本での夏休みはとても愉快であった。(英語母語話者、イギリス人男性)

友達と浅草や吉祥寺に行き、観光をしたり、名物を食べたりしたことを「さまざまな活動」と表現している。「活動」は多義語であるが、(1)のような「活動」の使い方には違和感を抱く。(1)を書いた学習者にどうしてこのように表現したのかと聞くと、「作文なので『こと』ではなく、『活動』を使ったほうが書き言葉としてふさわしいと思った」という答えであった。このような「活動」の使い方は上級レベルの日本語学習者にも見られ、授業中に教師がした「普段どういったことをするのが好きですか」という質問に対して、「家にいるのではなく、外で遊ぶといった活動が好きです」と答えた中国語母語話者がいた。この学習者にもどうして「活動」を使ったのかと聞いたところ、「授業中に教師に対して答える場合、『こと』ではなく、『活動』を使ったほうが適切であると考えた」という答えが返ってきた。このように、作文や授業中の発言ではかたい表現を使うほうが適切であると考え、「こと」を使うべきところで、あえて「活動」を使う学習者もいる。しかし、「こと」と「活動」はいつも互換

¹ 文章中の表現や文法は学習者が記述したままを掲載しており、誤りについて修正していない。また例文中の直接の分析対象となる箇所は下線 で示し、それ以外の問題となる箇所は二重下線 で示す。ただし、例文が短く、該当箇所が明白である場合は、下線の処理を施さない。

性があるのではなく、置き換えると不自然になる場合も多い。

本研究では、日本語学習者の「活動」という語の使い方に注目し、どのような文脈や場面で用いると不自然な使い方になるのかについて明らかにするとともに、不自然な表現である場合、どのように訂正したら良いのかについて提案する。以下では、まず国語辞典で「活動」の意味がどのように記述されているのかを確認する。次に、現代日本語の書きことばと話しことばにおいて、「活動」がどのように使われることが多いのかを、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、『BCCWJ』とする）および『日本語日常会話コーパス（モニター公開版）』（以下、『CEJC モニター公開版』とする）で調査する。さらに、日本語学習者が書きことばと話しことばにおいて「活動」をどのように用いているのかを『日本語学習者作文コーパス』および『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（International Corpus of Japanese as a Second Language）』（以下、『I-JAS』とする）で調査する。調査結果をもとに、学習者の「活動」の使い方が不自然である場合、どのように訂正したら良いのかについて提案する。さらに、「活動」の類義語である「アクティビティー」を学習者がどのように使っているのかを、『日本語学習者作文コーパス』および『I-JAS』で調査する。調査結果をもとに、学習者の「アクティビティー」の使い方が不自然である場合、どのように修正したら良いのかについて提案する。最後に、本研究のまとめを述べる。

2. 「活動」の意味—国語辞典における「活動」の記述

国語辞典で「活動」の意味がどのように記述されているかを確認する。『新明解国語辞典（第七版）』では次のように記述されている。

活動

㊦ [一する]（自サ）

- ① そのものの本来の働きとして、積極的な動きを見せる（行動をとる）こと。また、その動きや行動。

「梅雨前線の一が活発になり、大雨の降る恐れがある／夜一する動物／火山一に変化が見られる」

- ② 目的（使命）に応じた積極的な行動や運動をすること。また、その行動や運動（によってあげた成果）。

「販路拡大を図って、一の拠点を東京に移す／救援隊の一で遭難者全員が救出された／人権擁護を旗印に一する若手弁護士の物語／デビュー以来、コンサート中心の一を続けている歌手／労働運動の闘士として一する／環境保全のための一に情熱を燃やす／クラブ一・一的・一方針」

㊧

- ① 「活動写真」の略。「映画」の意の古風な表現。「一屋・一小屋」

- ② 「活動写真館」の略。「映画館」の意の古風な表現。

本研究で考察対象とするのは㊦の意味である。㊦の記述から、「活動」には①のように事物の働きについて表す場合と、②のように人の行動や運動について表す場合があることが分かる。また、②は単に人の行動や運動を表すのではなく、何らかの目的や使命があり、それに応じて行動や運動をする

という意味であることが確認できる。

3. 現代日本語における「活動」の使い方

3.1 『BCCWJ』における「活動」の使い方

『BCCWJ』で「活動」がどのように使われているのかを調査する。『BCCWJ』では、「活動」という名詞は31,141使われていた。その中で特徴的なのは、多くが人の行動について述べる際に使われており、「ボランティア活動」(684件)、「経済活動」(646件)、「市民活動」(468件)などの表現が多用されている点である。これらは2節で見たように、何らかの目的や使命があり、それに応じた積極的な行動や運動をすることを表している。「ボランティア活動」は人や社会の役に立つために、社会問題の解決などに自ら進んで取り組むことである。

ここで再度(1)について考えると、(1)の「活動」は友達と浅草や吉祥寺に行き、観光をしたり、名物を食べたりしたことを表しており、何らかの目的や使命があり、それに応じた積極的な行動や運動をすることを表しているのではない。そのため、「活動」と表現すると不自然な表現となる。

3.2 『CEJC モニター公開版』における「活動」の使い方

続いて『CEJC モニター公開版』で「活動」がどのように使われているのかを調査する。『CEJC モニター公開版』では、「活動」は17使われていた。使用されている回数は少ないが、すべて人の行動を表している。その中で最もよく使われているのは、サークルの「活動報告」(4件)である。その他にも、「就職の活動」「課外活動」「区民活動」(各1件)というように、何らかの目的や使命があり、それに応じた積極的な行動をすることを表している。

以上から、現代日本語における書きことばおよび話しことばにおいて、「活動」は人の行動について述べる際に使われることが多く、何らかの目的や使命があり、それに応じた積極的な行動をすることを表していると言うことができる。また、「ボランティア活動」「経済活動」などのように、よく使われる表現がある。

4. 日本語学習者の「活動」の使い方

4.1 『日本語学習者作文コーパス』と『I-JAS』における「活動」の適切な使い方の例

まず、『日本語学習者作文コーパス』を見る。『日本語学習者作文コーパス』において、「活動」は7用いられていた。また、日本語学習者の母語別に「活動」の使用例を見ると、表1のようであった。

表1 『日本語学習者作文コーパス』における「活動」の母語別使用例

	初級	中級	上級	合計
中国語	1	2	1	4
韓国語	0	2	1	3
合計	1	4	2	7

『日本語学習者作文コーパス』を見ると、次の(2)のように「活動」が適切に使われているものもある。

(2) コンピューターは発明された後、人間の生活がどんどん便利になったし、世界中の各地の情報も簡単に手に入るようになってきている。そのため、以前には人間にとって必要な活動がだんだん「不必要」になってきた。たとえば、普段大学生のレポートを書くことは、二、三十年前には必ず図書館に行って、山のような本棚から需要の本をさがし出すのだ。ことによって、友達と一緒にどこかへレポートの準備に行くかもしれない。今では、インターネットによって、必要な資料を簡単に探すことができるようになったので、図書館さえ行かなくても、レポートを完成するのが普通なことだが、二、三十年前には想像だにしないことだ。

(CG103 中国語母語話者 中級)

(2)は大学生がレポートを書くために、図書館に行って必要な本を探し出すというような、人間にとって必要な行動のことを「活動」と言っている。このように、人間が目的を達成するために積極的に行う行動を「活動」と表現するのは適切である。

次に『I-JAS』を見る。『I-JAS』で学習者の発話のみを検索したところ、「活動」は150用いられていた²。また、日本語学習者の母語別に「活動」の使用例を見ると、表2のような結果が得られた。

表2 『I-JAS』における「活動」の母語別使用数

学習者の母語	中国語	インドネシア語	タイ語	韓国語	ベトナム語	ハンガリー語	英語	ロシア語	トルコ語
使用数	39	26	23	22	13	9	8	8	2

『I-JAS』における「活動」の使用例の中で、最もよく使われていた表現は「就職活動」であり、27見られた³。その他にも、次の(3)や(4)のように、適切に用いられているものもある。なお、以下の例ではCがインタビュアーの発話、Kが学習者の発話である。

(3) K: えーっとまあ大学がある〈うんうん〉町ですから〈へー〉えー多分それは一番有名な、ことですけど、〈はい〉それ以外は、これはトルコ、ハンガリーの歴史のトルコ時代で、〈うん〉あのトルコ人の、と時のあの軍隊の活動の中央街(まち)でしたから、〈へー〉いろんなトルコ時代のえーっとときせき(遺跡)があります、ね

(HHG36-I ハンガリー語母語話者 SPOT 68点)

(4) C: あそうですか、で日本語を勉強した、あの動機、はどんなことだったんでしょう

K: 動機は〈うん〉、と、と好きな歌手がいたんですけど〈ふーん〉、その歌手が、におん(日本)、に、におん(日本)にいて、し、活動?してから、ずっとその歌の歌詞が、まちば、字幕なく、なしでちょっと (KKD49-I 韓国語母語話者 SPOT 79点)

(3)は軍隊の活動、(4)は韓国人歌手の日本での活動と述べている。これらの「活動」は使命や目的のために、人が積極的な行動をすることを表しているなので、適切な使い方である。

² 公開されている第一次データから第四次データを使用した。

³ 「就職活動」の使用は、中国語母語話者18件、韓国語母語話者5件、英語母語話者2件、ベトナム語母語話者1件、ロシア語母語話者1件であった。

4. 2 『日本語学習者作文コーパス』と『I-JAS』における「活動」の使い方の修正案

以下では、『日本語学習者作文コーパス』と『I-JAS』において「活動」の使い方が不自然である例を取りあげ、どのように修正したら良いかを示す。修正案として考えられるのは、「こと」「行為」「運動／遊び」「イベント／行事」である。

4. 2. 1 「こと」と表現したほうが良いもの

(5) K: えとーうちの中に、えーとー、うー、いろいろな活動します

あーとーそのー、時はー、えーと、お茶ーでも、飲んだ、あーと、食べーて、えとのんびりして、いろいろなことしました

えーと、でもー、うー、その時は、うー皿、あー体が、弱くなりました

(『I-JAS』 IID23-D インドネシア語母語話者 SPOT 64点)

(6) インターネットの発達で便利な生活をすごすことができた。ニュース、新聞のみならずよこうのようやく、音楽を聞くことなどいろいろな活動ができる。その間簡単な使い方ですぐ多くの人々がインターネットを利用している。

(『日本語学習者作文コーパス』 KG128 韓国語母語話者 上級)

まず(5)を見ると、家でお茶を飲んだり、食事したり、のんびりしたというような、何らかの目的や使命があるわけではなく、家でしたいろいろな行動を「活動」と表現している。この場合には「活動」ではなく、「こと」と表現したほうが適切である。(5)の学習者も、うちの中で「いろいろな活動します」と言った後、「いろいろなことしました」と言い換えているように、「いろいろなこと」のほうが適切であると感じていると考えられる。同様に、(6)もニュースや新聞、旅行の予約、音楽を聞くなどのさまざまな行動を「活動」と述べているが、「活動」ではなく「こと」と表現したほうが良い。

(7) K: あーはいはいはいはい、あー私は、あー四月（七月）に生まれたから、うー、あー誕生日は、うー中国のうー、あ、誕生日の時は、うーよく、よく友達と一緒に（うん）、んー、あーパーティーとか（うんうんうん）けー、カラオケ、に（うん）行くことが好きです

C: 小さい時は？

K: 小さい時は、{笑} 小さいとし（時）はかちん（家族）と一緒に、あー母とか（うん）、あー父とかと一緒にんー、んー特別な活動はーありません、と思います

C: そう？

K: はいはいはい （『I-JAS』 CCH13-I 中国語母語話者 SPOT 77点）

(7)は、最近誕生日に友達とパーティーをしたり、カラオケに行ったりするが、子供の時は誕生日に母親や父親と一緒に「特別な活動」はしなかったと述べている。ここで述べている「特別な活動」とは、普段はあまりしないようなこと、例えば友達とパーティーをすることや、カラオケに行くことなどを指している。これも(5)や(6)と同様、何らかの目的や使命があつて行う行動ではない。よって、(7)の「特別な活動」は「特別なこと」としたほうが良い。

以上のように、何らかの目的や使命があって行う行動でなく、日常行うさまざまな行動について述べる場合に「活動」を使うと不自然な表現となる。そのような場合には、「こと」と表現したほうが適切である。

4. 2. 2 「行為」と表現したほうが良いもの

(8) K: (前略) だから、主婦のマリに呼びました

でも、マリはよく寝ていたので、聞きませんでした

しようがなかったので、ケンのはしこ(梯子)を利用してうちに帰りたいんですけど

でも、警官は悪い人はよくない活動がしていたと思って(思って)、怒りました

そのとき、主婦のマリは起きました、それで、この間違いはなくなりました

(『I-JAS』 CCH28-SW2 中国語母語話者 SPOT 71点)

(8)では、帰宅したケンは鍵がかかっている家に入ることができず、梯子を使って窓から家の中に入ろうとしているところを警官に見られ、警官はケンが「よくない活動」をしていたと思ったということが述べられている。ケンの行動は、家に入るという目的があり、それに応じて行った梯子を使って窓から家の中に入るといった具体的な行為であると考えられるが、「活動」が表す目的とは、社会性や一般性がある目的であり、(8)のように個人的な目的に応じてする具体的な行動について「活動」を用いると不自然な表現となる。よって、ここでの「よくない活動」は「よくない行為」と修正する必要がある。

(9) K: あのストーリー(ストーリー)で、あー、ストーリーでは、あの、アニメでは、あー、あ、狸、

あ、狸達は、自分あー、じぶんの、森、を、守りたい、まもー、守る、ように、します

C: うん

K: あー、あの一、人間は一、自分の、住むための、町、とか、都市を、作るために、場所が無くて一、あの一、森の場所、に、作るこ、と一にしま(します)が一、あー、あのような活動のせいで、あー、動物、達は、あー、苦しんでいるとは、思っていない

(『I-JAS』 RRS40-I ロシア語母語話者 SPOT 73点)

(9)は、人間が、自分たちが住むために町や都市を森がある場所につくることを「活動」と言っている。人間にとっては、町や都市をつくることは目的や使命に応じた行動であるが、それは人間にとっての私利私欲のためであり、動物達が苦しむ結果を招いている。このように、人や社会の役に立つといった社会性や一般性がある目的のための行動ではなく、むしろ人や社会に不利益を生じさせる行動については、「活動」ではなく「行為」と表現したほうが適切である。

以上のように、「活動」は人や社会の役に立つといった、社会性や一般性がある目的のために行動するという意味である。よって、個人的な目的のための行動のように、社会性や一般性がない目的のために行う行動や、人や社会に不利益を生じさせる行動については「活動」ではなく、「行為」を用いたほうが適切である。

4. 2. 3 「運動／遊び」と表現したほうが良いもの

(10) K: 小さい頃はね、うーん、まあ小さいこ、小学生の時は、〈うん〉っと、ボール？、はい、えっとそれは何（なん）ですよ、えっとひ一人は、あ投げボールですか？

C: うん

K: ちょ、ああ、えっと多くの人一は、〈うん〉えっと、中に一あちこちを走って〈うんうんうんうん〉外の人は、ボールを投げて、〈うんうんうん〉人、に一打ったら〈うん〉その人はアウトですと、〈うんうんうんうん〉そんなかつことう、ずー活動と〈うんうん〉、つに（普通に）〈うん〉していました、はい（『I-JAS』 CCT16-I 中国語母語話者 SPOT 76点）

(10)は小学生の時にしていた、外でボールを投げたり、打ったり、走ったりするといった運動あるいは遊びを「活動」と言っている。「活動」が表す運動とは、ある目的を達成するための働きかけであり、遊びのことではない。よって、(10)は「活動」ではなく、「運動」あるいは「遊び」と表現したほうが適切である。

(11) C: うん、じゃあもっと将来ね、十年とか二十年、たぶん結婚して子供もいるかもしれませんね、で、その時に、田舎の生活がいいですか？都会の生活がいいですか、どっちがいいですか？どう？

K: そうですね

C: ね

K: じちゅは（実は）〈うん〉都会に〈うん〉住みたいです、〈うん〉なぜならえっと生活は便利で〈うん〉うん子ども、あーがえっと、えー、水泳、水泳とかえーと空手の〈うん〉ダンスという活動に参加できるからです

（『I-JAS』 VVN10-I ベトナム語母語話者 SPOT 58点）

(11)は水泳や空手、ダンスなどのことを「活動」と表現しているが、ここでは子供が参加する運動（の習い事）を表している。よって、「活動」ではなく、「運動（の習い事）」と表現したほうが適切である。

以上のように、「活動」は体を動かして遊んだり、運動したりすることを表すのではない。その場合には、「活動」ではなく「運動／遊び」と表現したほうが適切である。

4. 2. 4 「イベント／行事」と表現したほうが良いもの

(12) K: もし、たぶんあの一、〈うん〉えっとインドネシアの一 〈うん〉何（なん）とか何（なん）とか記念日、〈うーん〉国立記念日は〈うん〉、お祭り、お祭りじゃなくて〈うん〉お祭りみたいな活動かな、〈ふーん〉あります

C: どんなことをしますか？

K: どえっと一、みんなは一、あ一、朝から、〈うん〉夕方まで？ 〈うん〉えーと一コンテスト一いろいろなコンテストを行いますた（行いました）

（『I-JAS』 IID01-I インドネシア語 SPOT 66点）

(12)は国立記念日について、お祭りみたいな「活動」と説明している。ここでの「活動」は国立記念日というイベントあるいは行事を表しているため、「活動」ではなく、「イベント/行事」と表現したほうが適切である。

(13) 大学一年の暑休みでは、外国人から交流の活動で参加しました。日本人のよいと可愛の一面を見ました。それでも私の日本語はわるいです。日本人はほんどうに耐心し、熱心でした。

(『日本語学習者作文コーパス』 CG032 中国語母語話者 初級)

(13)は「交流の活動」に参加したと書かれているように、夏休みに行われた外国人と日本人が交流するイベントのことを「活動」と呼んでいる。よって、(13)においても「イベント/行事」と修正したほうが適切である。

以上のように、計画的に行われる多くの人の集まりについては「活動」ではなく、「イベント/行事」としたほうが適切である。

5. 「アクティビティー」の使い方について

最後に、「活動」の類義語である「アクティビティー」がどのように使われているのかについて、『日本語学習者作文コーパス』と『I-JAS』で確認する。『日本語学習者作文コーパス』では「アクティビティー」が使われている例がなかった。一方の『I-JAS』においては、「アクティビティー」は17見られた⁴。以下では、『I-JAS』において「アクティビティー」の使い方が不自然である例を取りあげ、どのように修正したら良いかを示す。修正案として考えられるのは、「こと」と「運動/遊び」である。

5. 1 「こと」と表現したほうがよいもの

(14) C: 素晴らしいですね、今、も(もう)、ちいさ、あの、子供たちが、本を読むのが嫌って人、
ほうが多いんですよ?

K: うん、今はたぶん、今は、なんか、コンピューターとか、DSがありますから〈はいはい〉、
私は子供の時には、そういうことはありませんから〈あー〉、なんか、なんか、楽しい、面白い、なんか、んー、アクティビティーをするのは〈んー〉、本を読むだけです

(『I-JAS』 EAU24-I 英語母語話者 SPOT 74点)

(15) C: 両方、田舎と町と、んーそうですか、えっとじゃ、もう一つ別の、事ですけど、じゃあお金と、お金と〈ん〉時間と、どちらの方(ほう)が、たくさんあった方(ほう)がいいですか?

K: あ時間、時間と思います、あんじこん(時間)、時間があったら、あーんー何(なに)、何(なに)もしする、できますえーと、えんー、時間があったらあー山に登ります、スポーツをします、えーと友達にあいたり(会ったり)、あ一本の/を読んだり、たくさんんーたくさんアクティビティーをします

⁴ 「アクティビティー」を使用している学習者を母語別に見ると、その内訳は、タイ語母語話者3名、英語母語話者4名、ロシア語母語話者1名、フランス語母語話者1名、ベトナム語母語話者1名であった。

まず(14)は、本を読むことが「面白いアクティビティー」であると表現している。この「アクティビティー」も 4.2.1 で見たように「こと」と表現し、ここでは「面白いと思うのは、本を読むことだけです」と表現したほうが適切である。同様に、(15)は山に登る、スポーツをする、友達に会う、本を読むといったさまざまな行動を「アクティビティー」と表現しているが、(15)も「たくさん(好きな)ことをします」と訂正したほうが良い。

(16) K: あーファームではえっとー有名なファームはファーム、ショークシャイファーム(観光地名)です、ショークシャイファーム(観光地名)は、えっとーいろいろな、アクティビティを、アクティビティがあります、(うん) えっとー観光客は、えっとーいま(馬)を、乗ったり

C: いま(馬)？

K: あ、馬

C: 馬、馬

K: 馬を乗ったり(はい)、えーとー牛乳を搾ったり、しています

C: あーじゃあ

K: はい、えっとそれ、またえっとーカウボーイのショーが、あります

(『I-JAS』 TTH45-I タイ語母語話者 SPOT 49点)

(16)は観光地で観光客は馬に乗ったり、牛乳を搾ったり、カウボーイのショーを見たりすることができることを「アクティビティー」があると表現している。これらは楽しんでできるさまざまなことである。よって、(16)においても「アクティビティー」を「こと」と表現したほうが適切である。

以上のように、さまざまな行動について述べる場合に「アクティビティー」を使うと不自然な表現となる。そのような場合には、「こと」と表現したほうが適切である。

5. 2 「運動／遊び」と表現したほうが良いもの

(17) C: ちっちゃい頃(ころ)は、よく泣きましたよーとか、ちっちゃい頃(ころ)はよく笑いましたよーとか

K: えーっとね、あたしはー、ほんとにあくちびち(アクティビティー)のこど、うーん、あくちびちー(アクティビティー)をー、するの、子供でした、あーあたしはスポーツダンスを、しましたそして、あーん、あたしのあーあたしの一番好きなスポーツのー、スポーツ、スポーツは、バイクでした、そしてー、あ母は、あー、あたしのことについて、本当にあくちびちー(アクティビティー)を、する子供とー、言う、と言います

(『I-JAS』 RRS41-I ロシア語母語話者 SPOT 61点)

(17)は子供のとき、スポーツダンスをしたり、バイクに乗ったりしていたことを「アクティビティーをする」と表現している。これは 4.2.3 で見た「活動」と同様に「運動／遊び」と表現したほうが適

切である。ここでは、「アクティビティーをする子供」ではなく、「運動をよくする子供／よく遊ぶ子供」と表現したほうが良い。

このように、遊んだり、運動したりする場合には、「アクティビティー」ではなく「運動／遊び」と表現したほうが適切である。

6. おわりに

本研究は、日本語学習者の「活動」という語の使い方に注目し、『日本語学習者作文コーパス』および『I-JAS』を用い、日本語学習者が「活動」をどのように用いているのかを調査し、使い方が不自然である場合、どのように訂正したら良いのかについて提案した。「活動」が人の行動について使われる場合には、何らかの目的や使命があり、それに応じて行動をするという意味を表す。よって、そのような意味を表さない場合には、「活動」を①「こと」、②「行為」、③「運動／遊び」、④「イベント／行事」と表現したほうが良いということを提案した。今後は、今回提案した修正案が適切であるかについて複数の日本語教師にアンケートをとり、確認したいと考えている。

参考文献

- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉(2019)『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版 コーパスの設計と特徴』国立国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書3
- 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之(編)(2012)『新明解国語辞典(第七版)』三省堂

関連 URL

- コーパス検索アプリケーション『中納言』(<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>)
- 『日本語学習者作文コーパス』(<http://sakubun.jpn.org/>)